

環境報告書

2022



室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

国立大学法人 室蘭工業大学

目次

学長あいさつ	・ ・ ・ ・ 3
--------	-----------

1 大学概要	・ ・ ・ ・ 4
--------	-----------

2 環境に関する基本方針	・ ・ ・ ・ 11
--------------	------------

3 環境マネジメントシステム	・ ・ 12
----------------	--------

4 環境配慮実施計画	・ ・ ・ ・ 13
------------	------------

5 環境負荷実績	・ ・ ・ ・ 14
----------	------------

6 環境配慮活動	・ ・ ・ ・ 18
----------	------------

7 地域との連携	・ ・ ・ ・ 19
----------	------------

8 関係法令、環境規制への対応	・ ・ ・ 23
-----------------	----------



【報告の対象範囲】

対象範囲：室蘭工業大学（職員宿舎・明德寮・明凜館・留学生宿舎2は除く）

期間：2022年4月1日～2023年3月31日

室蘭工業大学は「地域貢献」を大きなキーワードとして掲げ、北海道の課題解決は日本のそして世界の課題解決につながると考えて、教育・大学改革に取り組んでいます。

本学は、自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を生かして、産業界で活躍しつづける幅広い理工系人材を育てるべく教育改革を行い、工学部から理工学部へと大きく進化して、5年目となります。

ものごとの本質をつかみ、探究心を養うべく自然科学・理工学教育を全学的に充実させ、さらにICTやAIの本質を理解して使いこなし、もの・価値づくりに貢献できる学生諸君を育てる工業大学ならではの情報教育を推進しています。これにより、「確かな研究力をベースとした教育力」で北海道を世界水準の価値創造の場へと導くことを目指しています。

さて、近年では世界的にカーボンニュートラルを宣言する国々や企業が増えており、我が国でも2050年までにカーボンニュートラルを達成する方針を表明しました。この流れを受けて2021年7月には188の大学等が参加する「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が地域の脱炭素化への貢献や産学官連携強化を目指す場として設立され、本学もこれに参加することとなりました。

本学で作成した環境報告書も、これで3冊目となります。

本学では以前より環境に関する基本方針を定め、地球環境の維持・保全・改善に努めてまいりましたが、この環境報告書をご覧いただき、本学の活動についてのご理解を深めていただけると幸いです。



室蘭工業大学長
空閑良壽

1 大学概要

大学名 国立大学法人室蘭工業大学
所在地 〒050-8585
北海道室蘭市水元町27番1号
敷地面積 214,340㎡
延床面積 79,261㎡
沿革 昭和24年5月 室蘭工業大学設立
平成16年4月 国立大学法人室蘭工業大学となる

2023年（令和5年）5月1日現在



室蘭工業大学の理念と目標

—創造的な科学技術で夢をかたちに—

理 念

室蘭工業大学は、自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を活かし、総合的な理工学教育を行い、未来をひらく科学技術者を育てるとともに、人間・社会・自然との調和を考えた創造的な科学技術研究を展開し、地域社会さらには国際社会における知の拠点として豊かな社会の発展に貢献します。

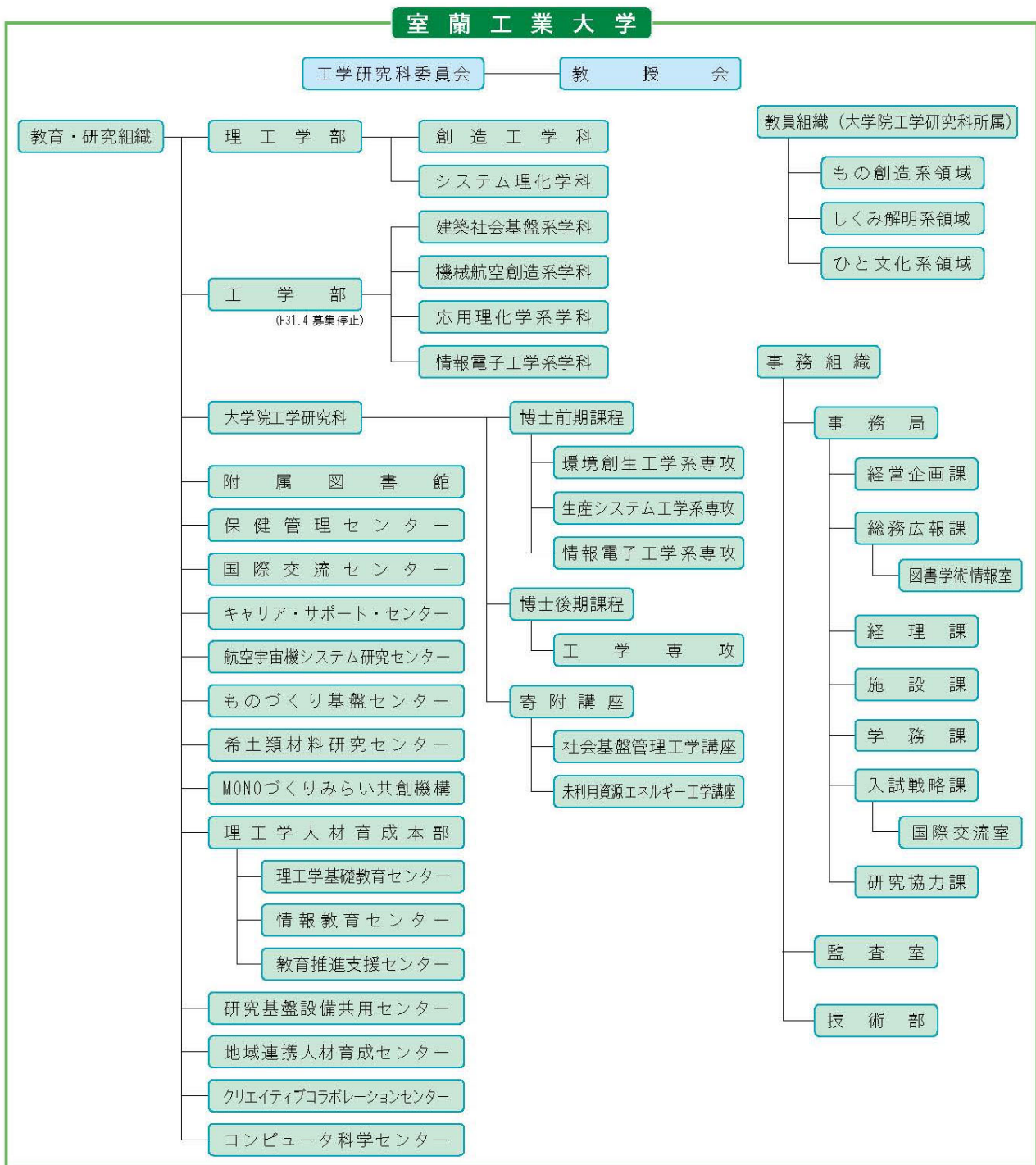
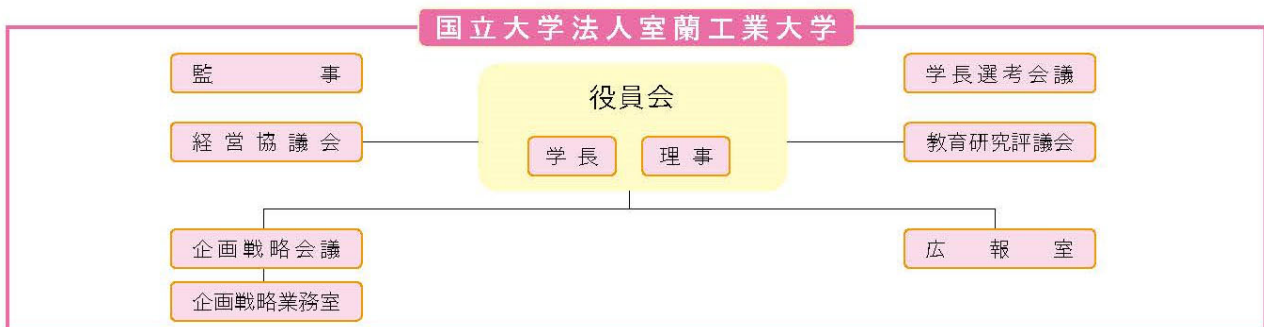
目 標

- 1 室蘭工業大学は、学生一人ひとりの多様な才能を伸ばし、幅広い教養と国際性、深い専門知識と創造性を養う教育を行います。
- 2 室蘭工業大学は、総合的な理工学に基づく教育を展開し、未来をひらく創造的な科学技術者を育成します。
- 3 室蘭工業大学は、真理の探究と創造的な研究活動を推進し、科学技術の発展に貢献します。
- 4 室蘭工業大学は、地球環境を慈しみ、科学技術と人間・社会・自然との調和を考えた研究を展開します。
- 5 室蘭工業大学は、学術研究の成果を地域・国際社会へ還元するとともに、産官学連携を推進し、豊かな社会の発展に貢献します。
- 6 室蘭工業大学は、国際的な共同研究や学術交流を積極的に推進し、世界の発展に貢献します。
- 7 室蘭工業大学は、絶えざる発展を目指し、自主自律と自己責任の精神をもって大学運営にあたります。
- 8 室蘭工業大学は、開かれた大学として情報を積極的に公開し、社会への説明責任を果たします。

1 大学概要

組織・機構

■組織図



1 大学概要

役職員

■ 役職員数

役員現員表

(令和5年5月1日現在)

部局	区分	学長	理事常勤	理事非常勤	監事常勤	監事非常勤	計
学	長	1					1
理	事		3				3
監	事					2	2
	計	1	3			2	6

部局別現員表

(令和5年5月1日現在)

部局	区分	副学長・ センター長等	教授	准教授	講師	助教	小計	事務職員・ 技術職員等	計
副学長		(5)					(5)		(5)
もの創造系領域			32	31	2	16	81		81
しくみ解明系領域			21	25		12	58		58
ひと文化系領域			12	15	2	2	31		31
附属図書館		(1)					(1)		(1)
保健管理センター		(1)					(1)	1	1 (1)
国際交流センター		(1)		(3)			(4)		(4)
キャリア・サポート・センター		(1)					(1)		(1)
航空宇宙機システム研究センター		(1)		(1)		(1)	(3)		(3)
ものづくり基盤センター		(1)					(1)		(1)
希土類材料研究センター		(1)	(1)				(2)		(2)
MONOづくりみらい共創機構		(1)	(1)				(2)		(2)
理工学人材育成本部		(1)					(1)		(1)
理工学基礎教育センター		(1)					(1)		(1)
教育推進支援センター		(1)					(1)		(1)
情報教育センター		(1)		(1)		(2)	(4)		(4)
研究基盤設備共用センター		(1)					(1)		(1)
地域連携人材育成センター		(1)		(1)			(2)		(2)
クリエイティブコラボレーションセンター		(1)					(1)		(1)
コンピュータ科学センター		(1)					(1)		(1)
技術部		(1)					(1)	22	22 (1)
事務局								81	81
	計	(22)	65 (2)	71 (6)	4 (0)	30 (3)	170 (33)	104	274 (33)

(注) () は兼務等を示す

特任教員

(令和5年5月1日現在)

区分	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	計
特任教員	6	1	1	1	9

■ 若手研究者等の採用

(令和4年度)

区分	資格	採用者数
ティーチング・アシスタント (TA)	博士前期課程	342
リサーチ・アシスタント (RA)	博士後期課程	18
非常勤研究員	P D	5
客員教員	—	14
その他研究員	—	0
計	—	379

1 大学概要

学生の状況

■学生定員及び現員

理工学部・工学部

(令和5年5月1日現在)

学部	学 科 / コース		入学定員	編入学定員	総定員	現 員					学科計
						1年次	2年次	3年次	4年次	計	
理工学部	創造工学科	昼間コース	325	25	1,350	342 (55) <5>	329 (32) <6>	351 (47) <11>	394 (35) <15>	1,416 (169) <37>	1,594 (180) <37>
		夜間主コース	40		160	49 (2)	40 (1)	38 (5)	51 (3)	178 (11)	
	システム理化学科	昼間コース	235	15	970	243 (45) <6>	242 (36) <3>	250 (36) <2>	310 (51) <8>	1,045 (168) <19>	1,045 (168) <19>
工学部	建築社会基盤系学科	昼間コース	—	—	—	—	—	—	4 (0) <1>	4 (0) <1>	4 (0) <1>
		夜間主コース	—	—	—	—	—	—	11 (1) <0>	11 (1) <0>	16 (1) <0>
	機械航空創造系学科	昼間コース	—	—	—	—	—	—	11 (1) <0>	11 (1) <0>	11 (2) <2>
		夜間主コース	—	—	—	—	—	—	5 (0)	5 (0)	
	応用理化学系学科	昼間コース	—	—	—	—	—	—	11 (2) <2>	11 (2) <2>	11 (2) <2>
	情報電子工学系学科	昼間コース	—	—	—	—	—	—	21 (1) <1>	21 (1) <1>	23 (1) <1>
夜間主コース		—	—	—	—	—	—	2 (0)	2 (0)		
小 計		昼間コース	560	40	2,320	585 (100) <11>	571 (68) <9>	601 (83) <13>	751 (90) <27>	2,508 (341) <60>	
		夜間主コース	40		160	49 (2)	40 (1)	38 (5)	58 (3)	185 (11)	
合 計			600	40	2,480	634 (102) <11>	611 (69) <9>	639 (88) <13>	809 (93) <27>	2,693 (352) <60>	

(注) () 内の数字は女子で内数・< > 内の数字は留学生で内数

(注) 平成31年4月 学部改組

大学院工学研究科

(令和5年5月1日現在)

専 攻	入学定員	総定員	現 員				
			1年次	2年次	3年次	計	
博士前期課程	環境創生工学系専攻	73	146	89 (17) <4>	91 (13) <7>	—	180 (30) <11>
	生産システム工学系専攻	84	168	89 (8) <7>	87 (9) <2>	—	176 (17) <9>
	情報電子工学系専攻	67	134	74 (7) <15>	84 (5) <14>	—	158 (12) <29>
	小 計	224	448	252 (32) <26>	262 (27) <23>	—	514 (59) <49>
博士後期課程	工 学 専 攻	15	45	21 (8) <12>	22 (6) <13>	27 (5) <16>	70 (19) <41>
	小 計	15	45	21 (8) <12>	22 (6) <13>	27 (5) <16>	70 (19) <41>
合 計		239	493	273 (40) <38>	284 (33) <36>	27 (5) <16>	584 (78) <90>

(注) () 内の数字は女子で内数・< > 内の数字は留学生で内数

(注) この他に26名が在籍 [科目等履修生6名 (うち特別聴講学生1名)、研究生20名 (うち特別研究学生12名)]

1 大学概要

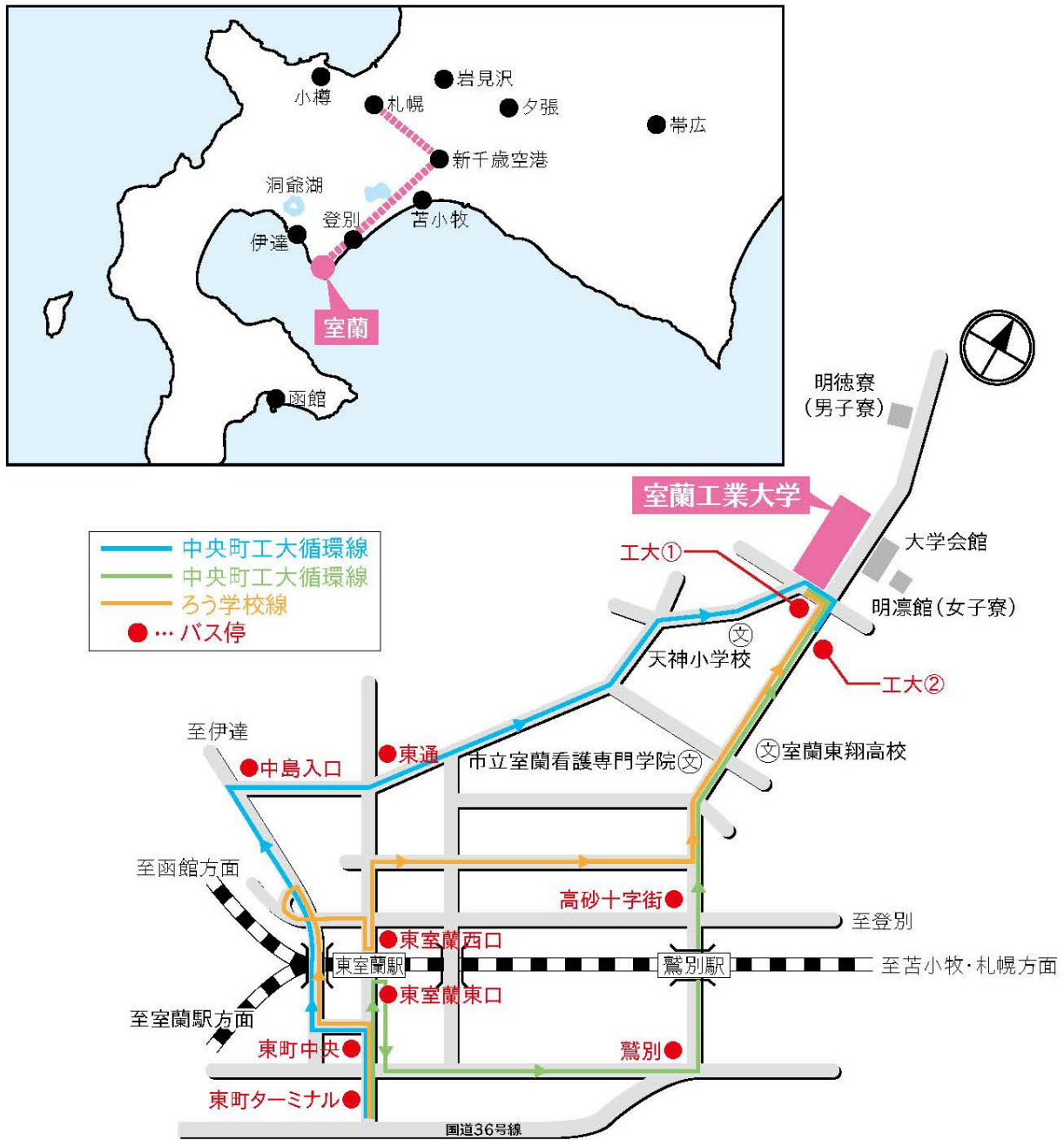
キャンパスマップ

■ キャンパス配置図



1 大学概要

アクセスマップ



アクセス		室蘭工業大学	
JR 札幌駅	JR特急列車	JR 東室蘭駅	バス
	約1時間30分		約20分
	高速バス		タクシー
新千歳空港	約1時間50分	室蘭工業大学	約10分
	JR南千歳駅乗換		約1時間
	約1時間30分		約1時間30分

2 環境に関する基本方針

室蘭工業大学は、近くに支笏洞爺国立公園を擁し、ハヤブサが生息する地球岬やカタクリの自生地として知られる室蘭（鷲別）岳など、豊かな自然環境に恵まれた地域に位置します。

本学は「創造的な科学技術で夢をかたちに」という基本理念のもとに、自然を慈しみ、持続可能な循環型社会の構築を目指して、科学技術と人間・社会・自然の調和を追求する創造的な教育研究を行います。

〈方針〉

室蘭工業大学は、地球環境と研究の調和を追求し、学生、教職員、地域住民との協力により、地球環境を守る教育研究活動を推進します。

1. 循環型社会の構築を目指し、技術者倫理教育を積極的に実施し、社会的責任を自覚する人材を養成します。
2. 循環型社会を担う人材を養成するために、環境教育と環境活動を積極的に展開します。
3. 循環型社会の実現を目指し、環境マネジメントシステムの持続的、かつ継続的な改善を図ります。
4. 学生、教職員、並びに地域住民の環境意識を高め、地球環境の保全・改善活動に努めます。
5. 環境保全に関する法律、法規、規則、協定等を順守し、地球環境の維持・改善に努めます。
6. 環境に関する基本方針と環境活動をホームページに公開し、学生、教職員をはじめ、地域住民や地域社会へ公表します。

室蘭工業大学は、環境に関する基本方針を達成するために環境目的・目標を設定し学生、教職員、及び地域住民と協力して環境改善活動を展開し、地球環境の維持・保全・改善に努めます。

3 環境マネジメントシステム

3-1 北海道環境マネジメントシステム標準の継続的認証取得

室蘭工業大学は、平成20年3月19日に、北海道における環境保全活動の取組と経営の安定を支援するためにつくられた環境規格である「北海道環境マネジメントシステム標準（HES）」ステップ1の認証を取得、翌年平成21年3月23日にステップ2に移行し（※1）、以後継続して認証を取得し続けています。

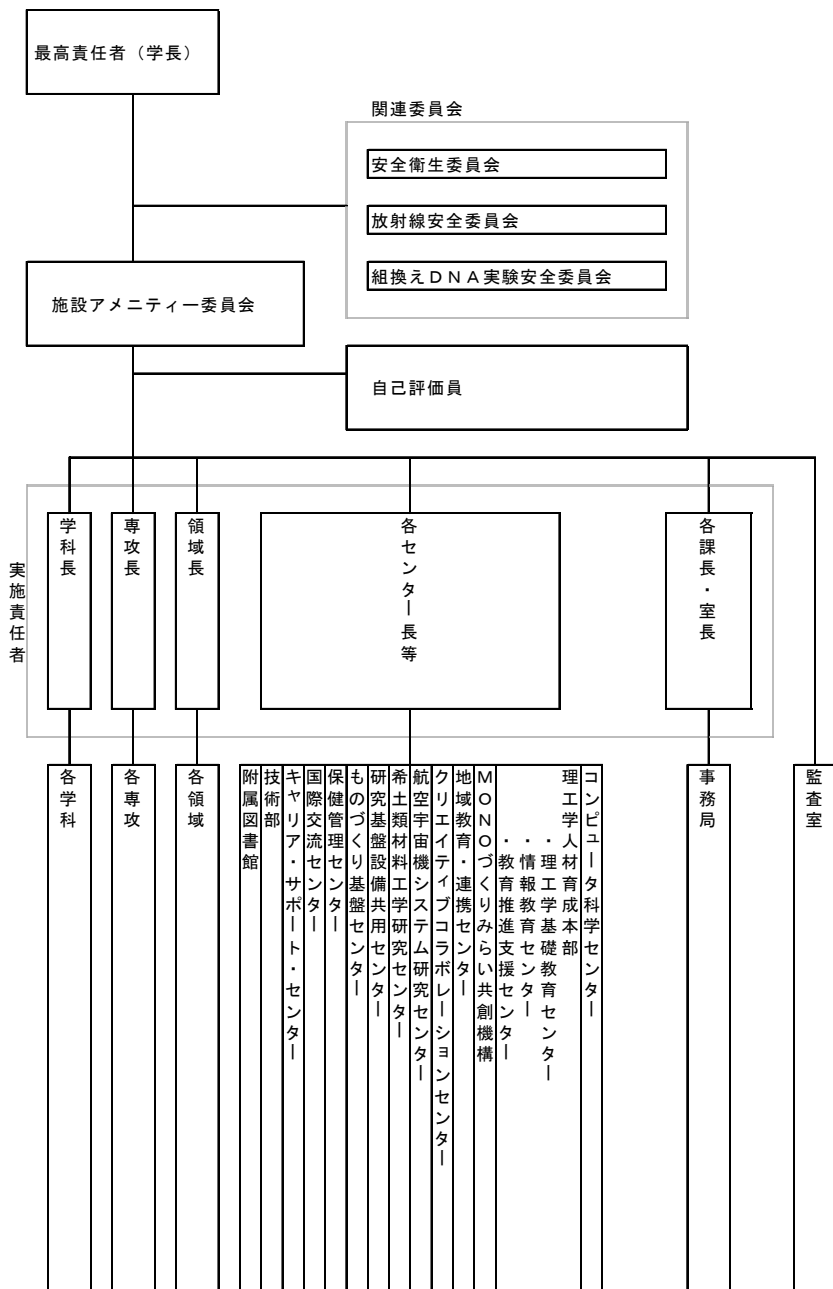
本学ではこの規格に則った環境マネジメントマニュアルを作成し、これを基に環境改善活動を継続しています。

※1
 ステップ1 環境問題についての取組が初めての組織向け。
 ステップ2 何らかの形で環境問題に取り組んでいる、又は将来ISO14001の認証取得を目指す組織向け。



3-2 環境マネジメントシステム体制図

室蘭工業大学では、最高責任者のもと、以下の体制で環境改善活動を行っています。



4 環境配慮実施計画

4-1 エネルギー使用量の削減

- ・省エネ法に基づいてエネルギー管理標準（※1）を制定
- ・省エネルギー型照明設備・空調設備等の導入を推進
- ・照明の適正化（照度、点灯時間の適正管理）を行う
- ・空調の温度設定を適切に行う
- ・本学HPで電力使用量が見える化する（省電力の啓蒙）
- ・省エネパトロールの実施（講義室の照明・空調の適正使用の確認）
- ・既存設備の運用見直し
- ・再生可能エネルギーの導入（太陽光発電設備）
- ・空調設備の適正なメンテナンスを行う

※1 エネルギー使用設備のエネルギー使用合理化のための管理要領（運転管理、計測・記録、保守・点検）を定めた「管理マニュアル」

4-2 水使用量の節減

- ・節水型の衛生器具・水洗トイレ等の導入
- ・トイレの蛇口を人感センサー式に更新

4-3 一般・産業廃棄物の管理

- ・一般ゴミの分別の徹底、産業廃棄物に関する教育・管理の徹底
- ・教育研究活動で発生する産業廃棄物を一般廃棄物と分離回収
- ・実験廃液、廃試薬の回収処理
- ・廃棄物の排出量の管理（排出ルールの見直し、排出場所のパトロールを実施）

4-4 紙使用量の削減、リサイクルの推進

- ・会議、打合せ時のペーパーレス化の推進
- ・両面印刷・両面コピーに努める

4-5 HES活動に関連する教育・研究活動の推進

- ・全教職員、全学生向けに定期的に環境関連の講演会を行う
- ・重油地下タンク漏洩を想定した訓練を行う

5 環境負荷実績

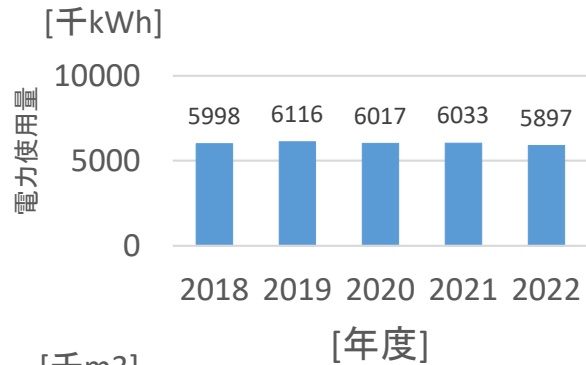
5-1 エネルギー使用量

本学のエネルギー使用量は電力、ガス、重油、灯油の順で多く、過去5年間に於ける各使用量と総使用量は以下のとおりです。

(1) 電力使用量

2022年度の電力使用量は前年度と比較して建物面積が600㎡増えたにもかかわらず2.3%の減少となりました。理由として冬季の融雪設備の使用を制限したことにより使用電力量が減少したと考えられます。

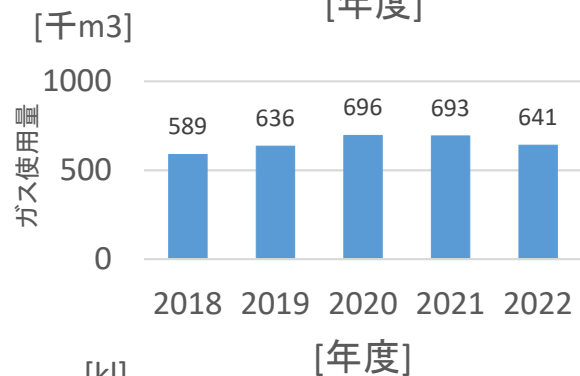
過去5年の推移をみるとほぼ横ばい傾向にあります。



(2) ガス使用量

2022年度のガス使用量は前年度と比較してガス式ロードヒーティング設備が増えたにもかかわらず7.5%の減少となりました。理由として冬季の平均外気温が前年度より高かったにより暖房燃料消費量が少なくなったことが考えられます。

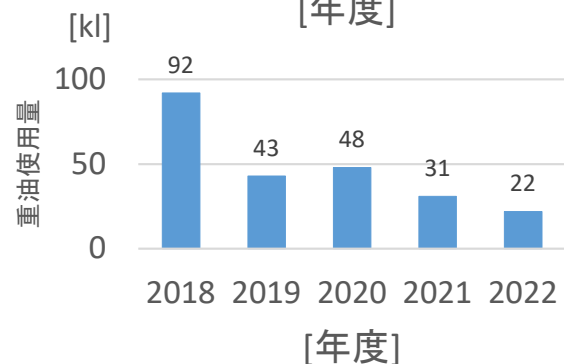
過去5年の推移を見ると2020年をピークに若干減少傾向にあります。



(3) 重油使用量

2022年度の重油使用量は前年度と比較して29.0%の減少となりました。理由として冬季の平均外気温が前年度より高かった事により冬場の消費電力が抑えられ、ピークカット用自家発電機の燃料消費量が少なくなったことが考えられます。

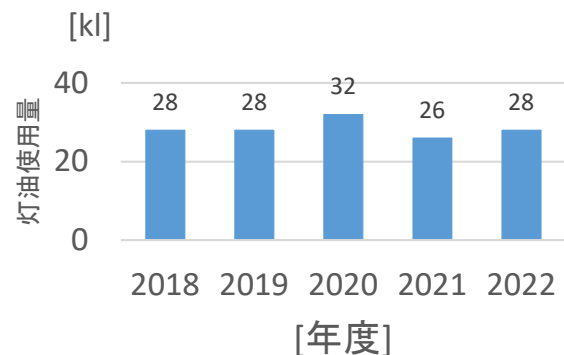
過去5年の推移を見ると大幅な減少傾向にあります。



(4) 灯油使用量

2022年度の灯油使用量は前年度と比較して7.6%の増加となりました。理由として年度途中より附属図書館の使用が始まったことにより暖房燃料消費量が多くなったことが考えられます。

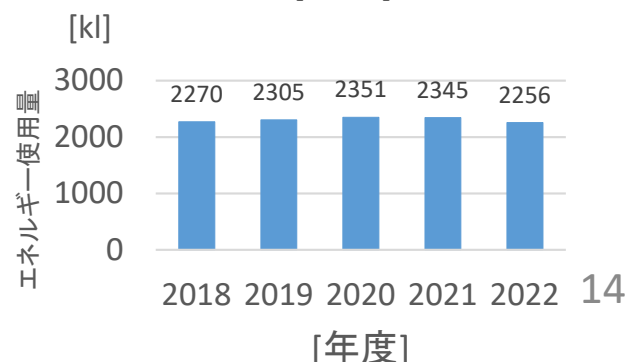
過去5年の推移をみると、ほぼ横ばい傾向にあります。



(5) エネルギー総使用量（原油換算値）

2022年度のエネルギー使用量（(1)から(4)の合計）の原油換算値は前年度と比較して3.8%減少しました。理由として冬季の平均外気温が高かったことや融雪設備の制限を行ったことにより暖房燃料消費量が少なくなったことが考えられます。

過去5年の推移をみるとほぼ横ばい傾向にあります。



5 環境負荷実績

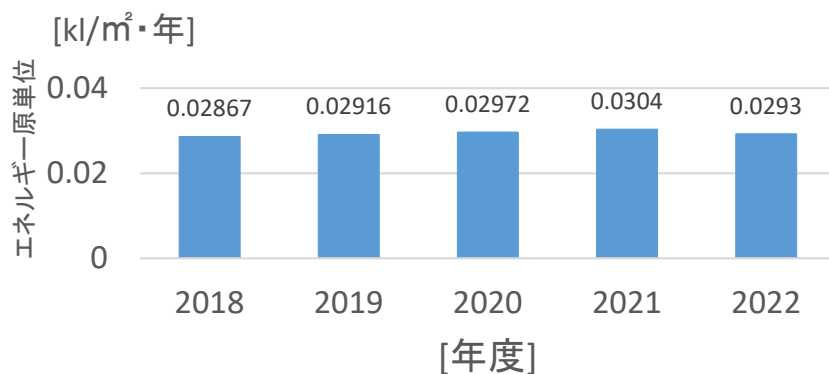
本学の年間エネルギー使用量は原油換算（※1）で1,500klを超えており、「第二種エネルギー管理指定工場」（※2）として国に指定されています。

- ※1 エネルギー使用量(電気・ガス・重油・灯油)に換算係数を乗じて計算した熱量[GJ]を合算した合計使用熱量に原油換算係数0.0258[kl/GJ]を乗じたもの
- ※2 事業者が設置している工場等(大学では団地)のうち、年間エネルギー使用量の原油換算値が1,500kl以上3,000kl未満の工場等。エネルギー管理員等の選任や国に中長期計画書、定期報告書を毎年提出する義務がある

5-2 エネルギー原単位

エネルギー原単位とは、その年度のエネルギー使用量の原油換算値を校舎の延床面積で割った値となります。

過去5年度間の推移をみると、2022年度は前年度と比較して3.6%減少しましたが、エネルギー管理標準では「5年度間の相乗平均原単位変化（※1）を1%低減させる」となっており、2017~2021年度間では99.4%（電気需要平準化原単位変化99.4%）で2018~2022年度間は100.5%（電気需要平準化原単位変化100.6%）で1%低減の目標を達成できませんでした。経済産業省で公表している「工場・事業場における省エネ法定期報告に基づく事業者クラス分け評価（※2）の結果」に示すとおり、2022年度はB評価となりました。



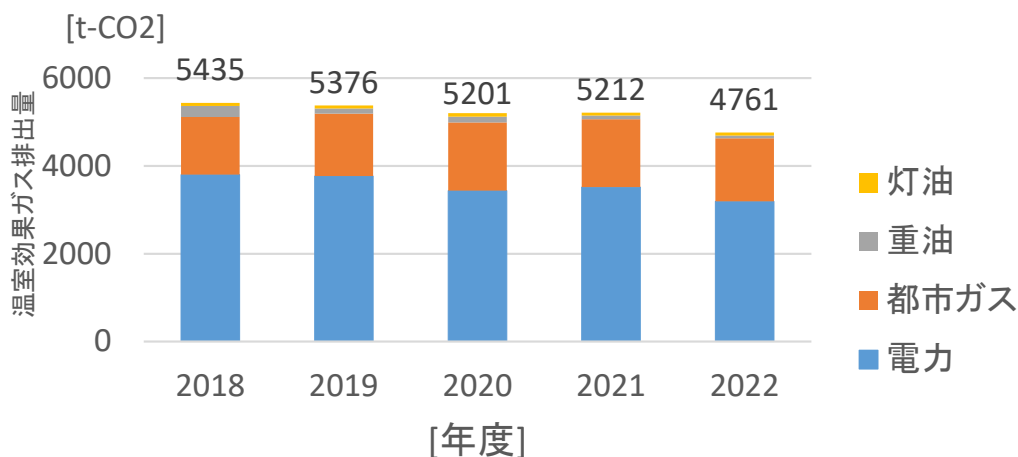
- ※1 直近過去5年度間のエネルギー消費原単位の対前年度比をそれぞれ乗じた値の4乗根で算出した値
- ※2 省エネの定期報告書の内容によりS(優良事業者)・A(更なる努力が期待される事業者)・B(停滞事業者)・C(要注意事業者)の4段階にクラス分けして、クラスに応じてメリハリのある対応を実施するもの

5-3 温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量は5-1のエネルギー使用量に種類ごとの排出係数をかけた値となります。

2022年度は、前年度より8.7%減少しました。理由として電力の使用量が減少したことに加えて、電力のCO₂排出係数が昨年より減少したことで電力分が9.2%の減少、都市ガスが使用量減少により7.0%減少、重油、灯油は使用量が全体の中では微量なので排出量の変化もあまりありませんでした。

過去5年間の推移をみると若干の減少傾向にあります。

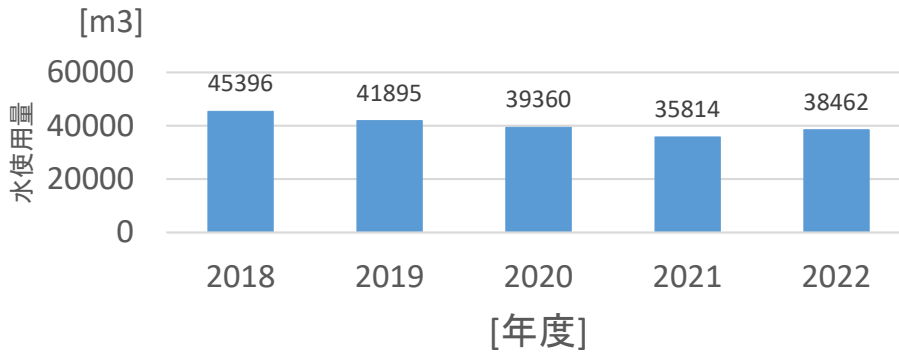


5 環境負荷実績

5-4 水使用量

2022年度の水使用量は、前年度より7.4%増加しました。理由として附属図書館の改修工事が完了し10月末から通常開館となり、水の使用量が増加したと考えられます。

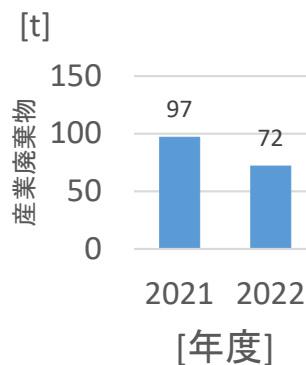
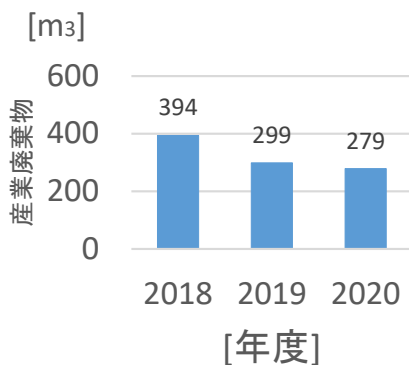
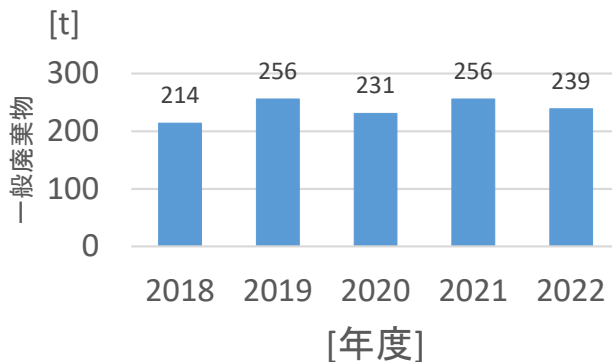
2020年度と比較すると、若干の減少傾向にあります。



5-5 廃棄物排出量

2022年度の廃棄物排出量は、一般廃棄物が前年度より6.6%減少しました。産業廃棄物については前年度より25.8%減少しました。理由として附属図書館の改修工事が完了し、物品の廃棄が減少したためと考えられます。

過去5年間の推移をみると、一般廃棄物は増減を繰り返しながらもほぼ横ばいで産業廃棄物は2018年度から2020年度までと2021年度から2022年度までのそれぞれの期間で減少しています。

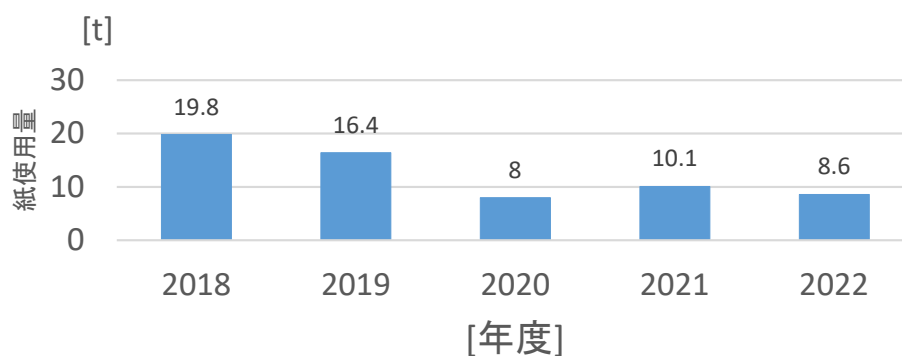


※2021年度より産業廃棄物の計量単位変更

5 環境負荷実績

5-6 紙購入量(OA用紙)

2022年度の紙使用量は、前年度より14.9%減少しました。2020年度はコロナ渦における本学の遠隔授業化によるペーパーレス化の影響で一旦減少し、2021年度は対面授業の復活により使用量が増加しましたが、2022年度から本学のデジタル・キャンパス推進が始まり、これに伴うペーパーレス化が進行していることも一つの要因としてあげられます。



6 環境配慮活動

6-1 HES講演会の実施

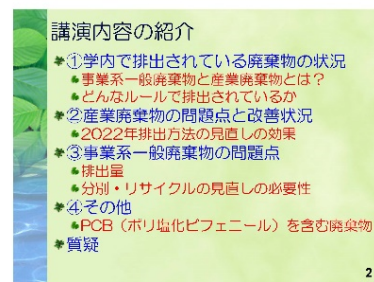
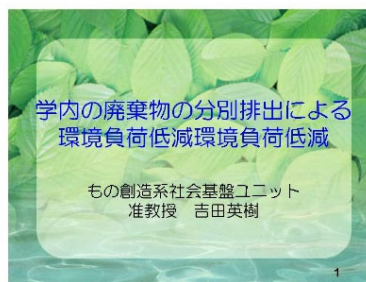
室蘭工業大学ではHES活動における教育面の充実の一つとして、全教職員と全学生を対象にした講演会を2023年3月10日（金）に行いました。

今回は産業廃棄物をテーマに取り上げ、本学のもの創造系領域の吉田英樹准教授に環境負荷低減についてご講演頂きました。

学内で排出されている廃棄物の状況、コスト・排出の問題点、および排出ルールの改善を提起して頂き、教職員と学生に対して環境負荷低減に関する理解を深める内容となりました。

HES講演会実施状況

開催日	講演テーマ	講師	備考
令和4年 3月8日	産業廃棄物の分別排出による環境負荷低減	吉田 英樹 准教授	オンデマンド配信
令和5年 3月10日	学内の廃棄物の分別排出による環境負荷低減	吉田 英樹 准教授	オンデマンド配信



6-2 環境に配慮した施設整備の実施

附属図書館改修及び増築

室蘭工業大学では附属図書館（改修面積：3,807㎡、増築面積：620㎡）の改修及び増築を行い、照明器具をLED照明器具に、冷熱源機器を高効率機器に、窓ガラスを遮熱効果のあるLow-Eガラスに変更し環境に配慮した施設整備を実施しました。

また、屋上に10kWの太陽光発電設備を設置しました。



教育・研究13号館改修

室蘭工業大学では教育・研究13号館（改修面積：1,139㎡）の改修を行い、附属図書館同様、照明のLED化や冷熱源に高効率機器の採用など、環境に配慮した施設整備を実施しました。

また、屋上に5kWの太陽光発電設備を設置し、蓄電池と組み合わせて建物内の事務室に給電しており、オフグリッド給電の実証実験の場としています。



7 地域との連携

室蘭工業大学では、環境改善活動として産学官連携、地域教育（社会学習・教育事業支援、社会人教育）等を行い、地域との連携を推進することで、地域社会の環境改善活動に貢献しています。

7-1 公開講座等の実施について

室蘭工業大学では、地域住民の皆様に学習の機会を提供することを目的として公開講座、サイエンススクール、大学訪問を行っています。また、高校生の皆さんの学習目標や進路選択の一助としていただくことを目的に、本学教員が高等学校へ出向き、理工系大学ならではのテーマで出前講義を実施しています。2022年度（令和4年度）は環境関連の講義を以下の通り開催しました。

令和4年度環境関連公開講座実施状況

開催日	講座・講義名	講師	募集定員	参加人数	備考
令和4年 9月3日	CO2濃度計を製作し、建物の換気の状態を把握しよう	栞原浩平	5	3	対面で開催

令和4年度環境関連出前講義等実施状況

開催日	講座・講義名	講師	募集定員	参加人数	備考
令和4年 4月15日	「水素を吸収・放出する金属」	齋藤 英之	特になし	38	オンラインで開催
令和4年 6月14日	「超高層ビルの秘密」	金 志訓	〃	25	
令和4年 7月13日	「ものづくり技術と材料の歴史」	清水 一道	〃	20	
令和4年 7月15日	「ものをつくる」とは？	風間 俊治	〃	23	
令和4年 7月20日	「聴覚から理解する音声対話AIのしくみ」	小林 洋介	〃	6	
令和4年 7月20日	「安全な建物作りに役立つ物理」	溝口 光男	〃	21	
令和4年 7月20日	「これからの建築に求められるもの」	濱 幸雄	〃	16	
令和4年 7月22日	「建物の地震被害と耐震設計の歴史」	高瀬 裕也	〃	22	
令和4年 9月9日	「建築をデザインする」	山田 深	〃	22	
令和4年 9月14日	「バイオ研究解説」	安居 光國	〃	57	

7 地域との連携

開催日	講座・講義名	講師	募集定員	参加人数	備考
令和4年 10月12日	ICTの進展と積雪寒冷地における 最先端の研究について	浅田 拓海	特になし	60	オンラインで開催
令和4年 11月1日	「お湯と氷で発電」	関根 ちひろ	〃	75	
令和4年 12月8日	「測る技術について-スマートフォ ンを例に-」	梶原 秀一	〃	65	
令和4年 12月19日	「建築をデザインする」	山田 深	〃	78	
令和4年 12月20日	「ものをつくる」とは？	風間 俊治	〃	80	
令和4年 12月20日	「建物の換気について」	栞原 浩平	〃	70	
令和4年 12月21日	「ものをつくる」とは？	風間 俊治	〃	36	
令和4年 12月21日	「これからの建築に求められるも の」	濱 幸雄	〃	41	
令和5年 1月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット工学に関する説明 ・機械ロボット工学コースと研究室 の紹介 ・最近のロボットの動向や社会実 装の課題について ・ロボットアームのプログラミン グ体験 ・ロボットアリーナの見学と研究 で製作したロボットの実演 	大石 義彦	〃	9	
		藤平 祥孝	〃	9	

7 地域との連携



7-2 環境に関する他団体の委員等

室蘭工業大学に在籍する教職員は、以下の通り環境に関連する他団体の委員等として地域に対して貢献しています。

委員等名	他団体名	氏名
苫小牧市都市計画審議会委員	苫小牧市	浅田 拓海
登別市空家等対策審議会委員	登別市	
北海道都市計画審議会委員	北海道	有村 幹治
地震防災対策における減災目標策定に関するワーキンググループ委員	北海道	
北海道防災会議地震火山対策部会地震専門委員	北海道	
北海道防災教育アドバイザー	北海道	
登別市景観・みどり審議会委員	登別市	市村 恒士
室蘭市緑化審議会委員	室蘭市	川村 志麻
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	
北海道国土利用計画審議会 委員	北海道	

7 地域との連携

委員等名	他団体名	氏名
北海道大規模小売店舗立地審議会 委員	北海道	神田 康晴
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	岸 徳光
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	木村 克俊
防災セミナーに係る講師	室蘭市	
室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会委員	室蘭市	木元 浩一
北海道大規模小売店舗立地審議会 特別委員	北海道	栗原 浩平
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	木幡 行宏
北海道新幹線、新函館北斗・札幌間 自然由来重金属等掘削土対策検討委員会 委員兼幹事	北海道環境保全技術協会	
北海道大規模小売店舗立地審議会 特別委員	北海道	小林 洋介
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	小室 雅人
伊達市景観審議会委員	伊達市	武田 明純
鷗川及び沙流川リバーカウンセラー	北海道開発局 室蘭開発建設部	中津川 誠
北海道環境審議会委員	北海道	
ISO/TC142国内委員会委員長	公益社団法人 日本空気清浄協会	藤本 敏行
ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会委員	中間貯蔵・環境安全事業株式会社	吉田 雅典
廃棄物最終処分場監視機関委員	旭川市	吉田 英樹
廃棄物処理施設検討会委員	北海道	
北海道環境審議会委員	北海道	
伊達市廃棄物減量等推進審議会委員	伊達市	
恵庭市焼却施設長期包括的管理運営事業 プロポーザル審査委員会委員	恵庭市	
PFI事業等審査委員会委員	十勝圏複合事務組合 くりりんセンター	
室蘭市高砂町1丁目水質基準値超過に係る 健康影響評価検討委員会委員	室蘭市	
室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会委員	室蘭市	
白石破碎工場更新事業者選定委員会委員	札幌市	

8 法令関係、環境規制への対応

8-1 環境関係法令の遵守について

室蘭工業大学では下記の環境に関する法令、規則等を遵守しています。

区 分	法 律
環境配慮活動関連	環境基本法、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）
エネルギー関連	エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ法）
温暖化防止関連	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）
化学物質関連	消防法、毒物及び劇物取締法、労働安全衛生法、じん灰法、高圧ガス保安法
公害防止関連	騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法
建築物関連	建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管法）、水道法、下水道法
廃棄物関連	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施工規則、北海道循環型社会形成の推進に関する条例、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB特措法）、特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）
放射性同位元素関連	放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律、国際規制物質の使用等に関する規則
学校関連	学校保健安全法

[発行年月]
2023年8月

室蘭工業大学施設課
〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号
TEL 0143-46-5072 FAX 0143-46-5083
Mail:sikikaku@muroran-it.ac.jp

